

# スケトウダラの総合的な管理方策開発に向けた取り組み



【研究課題名】

総合的な管理方策の提案

【実施年度】平成23～27年度

経営経済研究センター 漁業管理グループ

金子貴臣・牧野光琢・廣田将仁

北海道区水産研究所資源管理部 底魚資源グループ

森 賢・船本鉄一郎・千村昌之・山下夕帆・田中寛繁

## 目 的

スケトウダラは、主に北海道周辺海域で漁獲され、我が国の海面漁業生産量の約6%を占める重要な漁業資源です。しかし、資源変動が大きく、様々な漁法で漁獲されていることから管理がとても難しい資源です。現在は国の定めるTAC（漁獲可能量）を軸にした漁業管理が行われていますが、この限られたTACを社会で有効に活用するために、これまで行ってきた資源変動と漁獲量の分析に加え、水産加工業も含めたスケトウダラの流通実態と漁獲量による価格変動の分析を行いました。

## 方法と結果

スケトウダラの流通と価格変動について主要な地域での聞き取り調査を行い、データを収集・分析しました。その結果、北海道では地域毎にスケトウダラの加工処理能力の上限があり（図1）、その上限がスケトウダラの水揚げ単価に大きな影響を与えていることがわかりました。例えば、ある地域では1日あたり可能な加工処理量がおよそ900トンであり、これを超える水揚げが続くと加工処理が追いつかなくなり、せっかく水揚げされたスケトウダラを有効に活用することができなくなります。その結果として、水揚げ単価を大きく下落させてしまう大きな理由の一つになることが明らかとなりました（図2）。

## 波及効果

水産加工業者の多くは、安価な原料が短期的に大量に供給される状況よりも、ある程度の値段でも原料が安定的に供給される方が望ましいと考えています。今後、スケトウダラ

資源が増加しても、地域の水産加工業の発展とそれに伴う加工処理能力の拡充がなければ、水揚げされた魚を社会で有効に活用することができません。このため、同じ地域の異なる漁業種間で水揚げを細かく調整する仕組みや、より細かな操業計画を立て履行する仕組みが必要です。これらのきめ細かい取組により、スケトウダラ資源を増やしながらか、安定的な食料供給を実現することが期待されます。

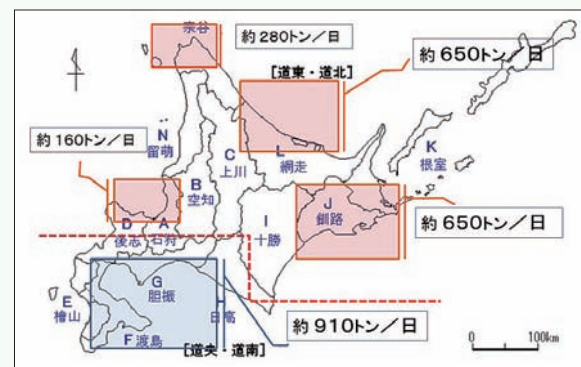


図1 スケトウダラ処理能力推定量

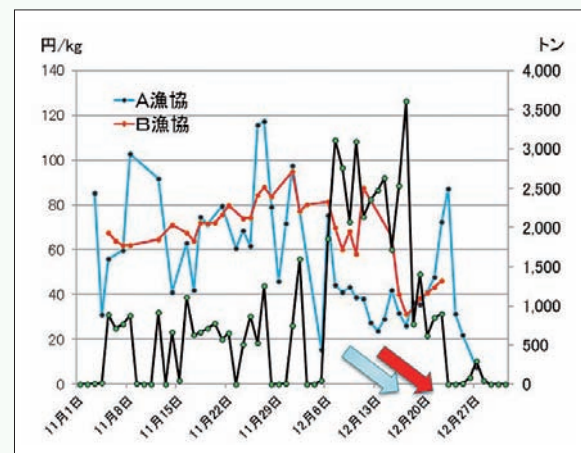


図2 スケトウダラ日別水揚げ量（黒線）と価格（赤線、青線）  
矢印は各漁協の単価の下落を示す。左軸は単価（円/kg）、右軸は水揚量（t/日）を表す。